

仙台市太白山自然観察の森 情報誌 2023年12月号

森のおくりもの12

NO.387 The Gift from Woods



フヨフヨ飛ぶ姿は「雪の妖精」のような小さな白いモフモフ。消えてしまいそうなのはかない姿の「雪虫」ですが、その体にはゴージャスなファーショール(振袖の時のフワフワショールですよ)をまとっているようです。優雅な旅行中に見える彼女たちですが、雪が降る前に新天地での出産に向けた厳しい旅の途中なのです。自然観察の森でも冬仕様として「野鳥のレストラン」が始まり「ガイドウォーク」は午前のみ実施となります。春からのクマ出没情報、猛暑などで大変な年でしたが、来年もよろしくお願いいたします。 【館長：佐藤由美】

森のことは

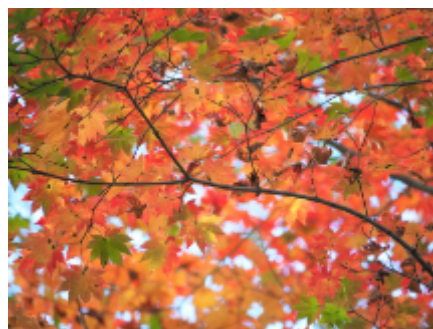
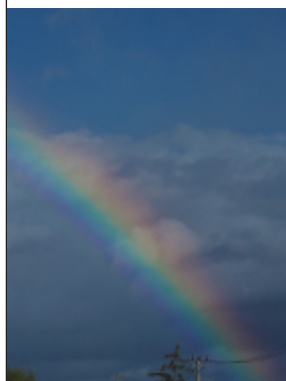
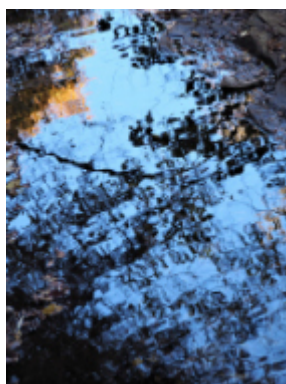
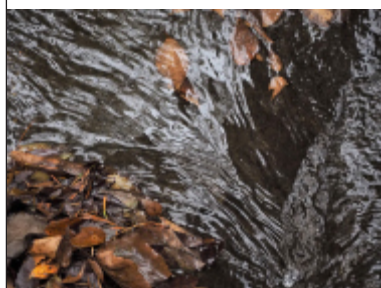
自然の様子や出来事を四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします。

『光陰流水(こういんりゅうすい)』

いつまでも夏のような気温が続いたことで、秋が短かった印象がありました。高温傾向が続くことで紅葉が遅くなるかもしれないといわれていましたが、急に冷え込んで寒くなった日もあり、色づきはいつもと大差なく進みました。また、強い寒気が入って仙台でも11月25日に初雪が観測されました。天気予報では、この冬は暖冬と予想されているようですが、平年の初雪は26日なので、むしろいつもより早くて寒いのではと思いましたが、果たしてこれからどうなるのでしょうか。

葉がどんどん散って冬枯れの光景になっていく様子に、もう12月ではないかとハッとしました。年末ということは2023年も終わりだということで、時が経つのはなんて早いのだろうと思いました。『光陰流水』という言葉があります。「光陰」は太陽と月のことで、月日や年月を表し、時の流れが非常に早いことを水の流れるようにたとえ、「流れる水のように月日が過ぎていく」という意味です。「月日はとどまることなくあつという間に過ぎてしまうので、一日一日を大切に」ということなのでしょう。

月日の流れもあつという間ですが、最近の世の中の変化がとても早いと感じます。いつの間にか様々なことが変わっていて、時代の波に取り残されているような気になります。しかし、江戸から明治の始め頃など、過去にはもっと激動の変化があったと思われます。この時と比べたらいした変化ではないと考え、新しい変化の流れに乗ればと思います。 【レンジャー：新田隆一】





12月の野鳥情報

12月から来年の3月末まで自然観察センター裏庭にバードテーブルを設置します。毎年やっているのだから覚えている野鳥もいるようで、設置する前日あたりからバードテーブル周辺をウロウロしている小鳥たちもいます。バードテーブルにやってくる小鳥たちは、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、キジバト、スズメなどがよく来ます。設置してすぐはそんな感じですが、しばらくするとアトリ、カワラヒワ、アオジ、カシラダカなども混ざります。そんな小鳥たちを狙ってハイタカなどの猛禽類が来ることもあります。自然観察センター研修室からのんびり観察できるので是非お越しください。



【レンジャー：齋 正宏】

バードテーブルにやってくる野鳥たち



ヤマガラ

オレンジ色のお腹が目立つ。バードテーブルではひまわりの種を食べる。

大きさ 14cm



シジュウカラ

胸の黒い筋が特徴。オスが太く、メスは細い。

大きさ 14cm



カワラヒワ

集団でやってくる。バードテーブルにも乗るが、地面に落ちたエサをペンチのようなくちばしで砕いて食べる。

大きさ 14cm



アオジ

バードテーブルには乗らず下に落ちてエサをついばむ。夕方遅くまで見ることが出来る。

大きさ 16cm



ヒヨドリ

バードテーブルに来ている他の小鳥たちを追い払うこともあり気性が荒い一面もある。

大きさ 27cm



カシラダカ

時々冠羽が立って見えるのが名前の由来。バードテーブルには乗らず地面の餌をついばむ。
※冬鳥としてやってくる。

大きさ 15cm

※冬鳥 越冬のために日本より北の国から渡ってきて、冬を日本で過ごし、冬が終わると再び繁殖のために北の国に渡っていく鳥。

森の「あれこれ」



「ケヤキの旅立ち」

ごうっと強い風が吹き、20mはありそうなケヤキからたくさんの葉っぱがパラパラと舞いました。



ひろってみるとケヤキの葉と小さな葉をつけた小枝でした。よく見ると葉のそばに小さな丸いものが…ケヤキの実です。

もしも子ども(ケヤキの実)がポトンと下に落ちるとお母さん(ケヤキの木)の影となって太陽光線があたらず十分育つことはできないでしょう。そのため植物は子供たちを遠くに行かせてあげようと様々な工夫をします。風を利用するのもその一つ(タンポポの綿毛が有名)。

実と一緒に翼となる小さな葉をつけ、実が熟して乾燥したころ強風にあおられて枝は飛ばされ、風に乗って陽のあたる新天地へ運ばれる。まだ実は熟さず枝がとれなければ旅立ちはまだまだ先…なんと単純で緻密な自然の営みでしょうか。「センス・オブ・ワンダー」はすぐ身近にあるのですね。

自然観察センター前にあるケヤキで多くの“子どもたち”が飛んでいきます。街中の小さな公園でも定禅寺通りでもケヤキの高木があれば観察できると思います。

【レンジャー：木田秀幸】



森は糸



森は布

森は様々な生き物が互いにつながって
森として生きているんですね (*~*)

散り残ったガマズミの枯葉の上に葉の鋸歯までそっくりなチョウが止まっていました。色合いといい質感といい枯葉そのものという感じです。翅裏に白色の「C」のような文字が見えます。翅の先端はとがったギザギザの特徴からどうやらキタテハのようです。キタテハは成虫で越冬するタテハチョウの仲間、学名には「金色のC」という文言が入っています。模様のCに由来した名前なんですね。また、「白色のC」という仲間もいます。(^^♪



右下の写真が、「白色のC」という名のシータテハです。翅の裏側の色やまだら模様はやはり枯葉そっくりです。翅の先端がキタテハと比べやや丸みを帯びています。花が少なく気温が氷点下になる冬を成虫で過ごすのは至難の業に違いありません。食事をとらずエネルギー消費を最小限にし、体を凍らせない仕組みを体内に持ち冬を凌ぎます。さらに外敵の目を眩ませるように落ち葉や樹皮にそっくりな翅まで備えているなんて驚きですね。落ち葉は優しく彼らを守っているともいえそうです。(^^♪【レンジャー:菅原幸彦】

12月のイベント&お知らせ

イベント

◆「おはよう野鳥かんさつ」

- 【日時】12月16日(土) 7:00~8:30
- 【対象】15名 (中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】講師の解説を聞きながら冬の雑木林でバードウォッチングをします
- 【持ち物】双眼鏡、飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】12月6日(水)午前9時より電話受付(先着)

◆「野鳥観察とバードケーキ作り」

- 【日時】12月23日(土) 10:00~11:50
- 【対象】小学生以上 10名 (中学生以下は保護者同伴)
- 【内容】野鳥の観察と野鳥のえさのバードケーキを作ります
- 【持ち物】双眼鏡、飲み物、帽子、かっぱ、防寒具、歩きやすい服装と靴
- 【申込み】12月7日(木)午前9時より電話受付(先着)

◆「野鳥のレストラン」OPEN!

- 【日時】12月1日(金)~3月31日(日) 9:00~16:30の開館時間中
- 【内容】野鳥のために冬季限定で餌台を設置しています
餌を食べる様子を窓からそっと見ることができます



ガイドウォーク 毎週日曜日開催
申込み不要、どなたでも参加できます

開催日: 3日, 10日, 17日, 24日

時間: 10:00~11:30

※12月~3月の冬季は午前のみ開催

休館日



4日, 11日, 18日, 25日

**毎週月曜日休館、年末年始
12月28日~1月4日まで休館**

観察の森へのアクセス



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
- ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
- ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分

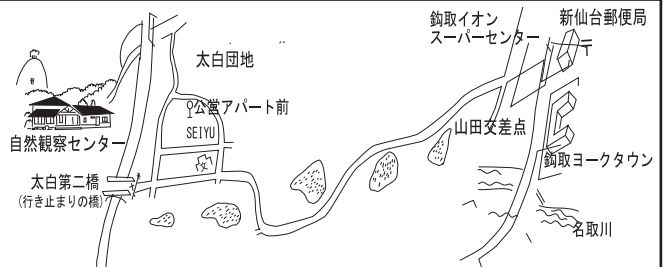
【行先】①②③「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」

※③のみ「太白団地、山田自由ヶ丘経由仙台南ニュータウン行」

いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分

お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。
駐車場から徒歩5分でセンター



〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

発行: (公財)仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター